

## 平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

総合学科の特性を活かして地域のニーズや変化する社会の要請に応える教育活動を展開し、地域や次代を支えリードする人材を育成する。

1. 多様な学びを通して能力・適性を伸ばし、自らの将来を展望し見通すことができる力を育む。
2. 激変する社会の中にあっても、自らを失うことなく新しい社会を支えリードしていくことのできる「自主、自律、創造」の力を育む。
3. 本校で身につけた力や経験に自信と誇りを持ち、培った友情をも背景として様々な困難に立ち向かっていく力を育む。
4. 上記の取組に際し、学校、地域における教育資源と社会資源の相互活用を図るため、開かれた学校づくりをより一層推進する。

## 2 中期的目標

## 1 確かな学力への取組み

(1) 学習指導要領を踏まえ、「わかる授業、学力がつく授業、進路に結果をだす授業」をめざした取組みを進める。

ア 総合学科の特性を活かした教育課程の編成を行うとともに、基礎基本の学力の定着をめざして授業改善に取り組む。

イ ビオトープなどの校内教育資源とともに、福祉施設や近隣の学校園など校外の教育資源を適宜活用し、「感性が磨かれる授業、実社会との関わりを実感するような授業」をめざした取組みを行う。

ウ ここ数年新規採用者が増加し、経験の浅い教職員に授業力や学校業務の習熟を行うことが急務であることから、これまでに蓄積してきた授業実践の成果を継承しつつ、ICT 機器を活用するなど授業に新風を吹き込む取組みを行う。

エ 各教科の授業や「総合的な学習の時間」等において、学校図書館の利用を奨励し、読書活動の推進を図る。

\*学校教育自己診断（生徒）における「わかりやすい授業」の肯定率を、H30 には 65%以上をめざす。(H27 47%)

## 2 キャリア教育、人権教育の推進

(1) キャリア教育、人権教育を系統的、積極的に推進し、単なる卒業後の進路を決めるのではなく、将来、職業人・社会人としてよりよく自己を活かして生きていくための基盤となる能力や態度を育成する。

ア 総合学科必履修科目である「産業社会と人間」をはじめ、「総合的な学習の時間」、LHR 等を活用して、キャリア教育、人権教育、「志学」を総合的・融合的に行う。

イ 総合学科の特性を活かし、“量”より“質”による希望進路の実現を図り、進路未決定者の減少に向けて鋭意取り組む。

ウ 進学希望者が増加している現状に対応するため、生徒の進路希望実現のための学習支援、ICT 機器を含めた学習環境の整備に努める。

エ 生徒の学習歴の多様化を踏まえ、小中学校でのキャリア教育、人権教育の状況を把握し、小中学校と連携した取組みを一層推進する。

オ 自立支援コース生徒の進路実現に向け、校内サポートを充実させるとともに関係諸機関と連携し就労に向けた取組みを多面的に行う。

カ 人権教育、支援教育のスキルを共有・伝承し、後継者を育成していく。

\*H28 には進路未定率 5%以下を達成し、進路希望実現率 100%をめざす。(H27 6.5%)

## 3 教育相談体制の充実

(1) 生徒理解の促進と相談体制を充実し、課題解決に向けては関係諸機関と連携し機動的な対応を図る。

ア 個々の生徒が置かれている状況を的確に把握するため、生徒・保護者との面談を丁寧に行い、生徒・保護者との信頼関係に基づいた教育活動を展開する。

イ 相談事案は教育相談係や学年連絡会で集約し、本人の希望を大切にしながら情報の共有化を図り学校全体で支えていく体制を充実させる。その際、スクールカウンセラーを積極的に活用する。

\*学校教育自己診断（生徒）における「悩みや相談に親身なって応じてくれる先生がいる」の肯定率を、H30 には 70%以上をめざす。(H27 55%)

## 4 教育活動全般を通して「自主・自律・創造」の力を育成するとともに、「繋がることの大切さ、チームの力強さ」を実感させる。

(1) 多様な学びを通して身に付けた能力を最大限に発揮し、自律的自発的に活動し、自らの才能を開花させる環境を整える。

ア 総合学科ならではの授業展開により、クラス単位での「仲間づくり」が確立しにくい状況を踏まえ、学校行事や部活動を通して、集団としてのまとまりや縦横の連帯感から生じる新たな力や喜びを感じさせ、集団活動でのみ味わえる成就感・達成感を体験させる。

イ 他校種や地域との連携を深めるとともに学校情報の積極的な発信を行う。

\*部活動加入率を、H30 には 55%以上をめざす。(H27 42%)

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 11 月実施分]	学校協議会からの意見
<p><b>【学習指導等】</b></p> <p>・「わかる授業、学力がつく授業、進路に結果をだす授業」をめざし、ICT 機器の活用等をすすめて、授業改善に取り組んできた。自己診断（生徒）の「プロジェクターなどを使って説明」の肯定率は、大幅増（前年比 28%増）であった昨年をさらに 8%上回る 81%であり、取組みの成果があらわれていると思われる。自己診断（生徒）の「わかりやすい授業」の肯定率は 50%（3%増）と昨年より若干上回ったが、目標の 55%には届かなかった。ICT 機器の活用の他、AL 活動の推進等の授業形態の工夫や教材の精選につながる研修の計画・実施が課題である。</p> <p><b>【キャリア教育・人権教育等】</b></p> <p>・「産業社会と人間」・「総合的な学習の時間」・LHR 等を活用し、キャリア教育に取り組んだが、自己診断（生徒）の「将来の進路や生き方について考える機会」の肯定率が 66%から 62%に下がった。本校のキャリア教育の意義を主担の教員だけでなく、全教員が再認識し、高い意識を持って取り組む必要がある。</p> <p>・本校では「3 年間を見据えた人権教育」に取り組んできた。自己診断（生徒）の「人権の大切さについて学ぶ」の肯定率が 67%から 72%に上がっており、計画的な取組みが成果を上げていると思われる。</p> <p><b>【教育相談体制等】</b></p>	<p>第 1 回（6/23）</p> <p>○授業見学の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若い教員が多いように感じた。</li> <li>・自立支援コース生の個別授業はどのような内容・試験・教材なのか。</li> </ul> <p>○平成 28 年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は体育祭が盛り上がっていてよかった。</li> <li>・2014 年度に比べて、2015 年度ではより多くの生徒が希望の進路に決定している。連帯感のある雰囲気により、より多くの生徒が進路実現をしてほしい。</li> <li>・今後も、総合学科の特色をより多くの中学生に知ってもらい、間違いのない高校選びをしてほしい。</li> <li>・「産業社会と人間」が貝塚高校の一翼を担っている。</li> </ul> <p>第 2 回（10/20）</p> <p>○進路状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・男子の看護系志望の生徒はいるのか。</li> <li>・指定校推薦とはどういう入試か、試験はあるのか、指定校枠が増えるのはどのような時か。</li> <li>・様々な受験のスタイルがあり変化が大きい。生徒にも保護者にも一層の情報共有をお願いしたい。</li> </ul> <p>○自立支援コースについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校に自立支援コース生がいる意味はどのようなものか。</li> <li>・自立支援コースの就労支援など、内容を知ることができてよかった。</li> </ul> <p>第 3 回（1/26）</p> <p>○〈1 確かな学力の育成〉について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・合理的配慮をどのように考えているか。</li> <li>・ユニバーサルデザインや合理的配慮を何のために行うのかを見直し、研修等で職員の意識づ</li> </ul>

<p>・生徒・保護者との丁寧な面談や、相談室の整備といった、生徒理解の推進と相談体制の充実を進めてきた。自己診断（生徒）の「悩みや相談に親身になってくれる先生」の肯定率は、55%から57%に上がっているが、目標の60%には届いていない。全教員がカウンセリングマインドを持って、生徒に対応することの意味を再認識する必要がある。また、保健部が中心になって相談室を開設しているが、利用する生徒が少ないので、利用者増への工夫が課題である。</p>	<p>くりをしてはどうか。</p> <p>○〈3教育相談体制の充実〉について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒自ら相談に行くのは難しいのではないか。</li> <li>・生徒に限らず、保護者が教育相談・進路相談をできる機会を増やすことも大切ではないか。</li> <li>・相談箱を設置してみてもどうか。</li> </ul> <p>○全般について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合学科の特徴は何か。保護者としても（多くの）選択科目をどう選んで良いかわからない。</li> <li>・中学校の教員も若手が増えてきた。もっと若い世代に貝塚高校のことをきっちりと伝え、PRをしていきたい。</li> <li>・一般的に自己診断や満足度評価は80%をめざすものである。80%に満たないところをどうしていくか検討して欲しい。その点、保護者の意見はPTAの方がおられるので聞いて改善してほしい。</li> </ul>
---	---

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1)「わかる授業、学力がつく授業、進路に結果を出す授業」をめざした取組を進める。</p> <p>ア 総合学科の特性を活かしつつ生徒の実態を踏まえた授業改善に取組み、基礎基本の学力の定着を図る。</p> <p>イ 学校内外の教育資源を適宜活用し、「感性が磨かれる授業、実社会との関わりを実感するような授業」をめざした取組を進める。</p> <p>ウ これまでに蓄積してきた授業実践の成果を継承しつつ、ICT 機器を活用するなど授業に新風を吹き込む取組を進め、授業力の向上に努める。</p> <p>エ 各教科の授業や「総合的な学習の時間」等において、学校図書館の利用を奨励し、読書活動の推進を図る。</p>	<p>ア・授業アンケートの結果を踏まえ、教材の精選・工夫を行う。</p> <p>イ・農場、ピオトープなどの本校独自の教育環境を活用するとともに、地域社会をフィールドとした新たな学びを創出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園や福祉施設等との交流の一層の充実を図る。</li> </ul> <p>ウ・校内授業公開週間を年2回設け、教科の枠を超えたベテラン教員と初任者等の授業交流を積極的に行い、ベテランの指導方法のノウハウを継承するとともに、若手の持つ最新の知識やスキルを交換し、学校全体の授業力の向上をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT 機器の効果的な活用を図る。</li> <li>・他校種と連携して、授業改善に積極的に取組む。</li> <li>・教科の授業や「総合的な学習の時間」等において、学校図書館の利用促進を図る。</li> </ul>	<p>ア・自己診断（生徒）の「わかりやすい授業」47%を55%以上に。</p> <p>イ・地元学校園、施設との交流の成果物。</p> <p>ウ・公開授業週間（6月）における授業交流、のべ25講座以上に。（H27 20講座）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己診断（教職員）の「学習指導の方法等について他教科の担当者と話し合う機会がある」57%を65%に。</li> <li>・ICTを活用した授業力向上研修を3回実施。</li> <li>・自己診断（生徒）の「教え方に工夫をしている先生が多い」54%を60%以上に。</li> <li>・地元の小中学校と連携し、授業見学や合同研修会を3回以上実施。（H27 3回）</li> </ul> <p>エ・貸出冊数の1割増を。（H27 約2800冊）</p>	<p>ア・自己診断「わかりやすく楽しい授業が多い」47, 3%→50.3%と微増。ICTの活用も含め、一層授業力向上に努める。（△）</p> <p>イ・地元幼稚園との交流4回、福祉施設等への訪問多数。新たに市立図書館にも就労体験実施。今後は座学の出前授業を試みたい。（○）</p> <p>ウ・6月に授業見学週間27講座実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・11月初任者の授業公開実施</li> <li>・Web方式で「これからの貝高生像を考える」研修実施。（30名参加）（○）</li> <li>・自己診断「学習指導について話し合う」57%→50%（△）</li> <li>・ICT研修4月に1回目実施。2月に2回目実施。3月末に3回目実施（○）</li> <li>・自己診断「教え方に工夫」64%2</li> </ul> <p>様々な試みをしているが、教員間で話し合う余裕がないのか。心を開いて教員同士が話をできる環境作りが必要。（△）</p> <p>エ・今年度の図書貸し出し数は2月現在約2800冊で昨年並み。（△）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館開館時間を増やし、自習室を設置。日常的に生徒が活用。使用期間を拡大し、図書館利用者増につなげたい。（△）</li> </ul>
2 キャリア教育、人権教育の推進	<p>(1) キャリア教育、人権教育を系統的、積極的に推進する。</p> <p>ア 「産業社会と人間」、「総合的な学習の時間」、LHR等を活用して、キャリア教育、人権教育、「志学」を総合的・融合的に行う。</p> <p>イ 総合学科の特性を活かし、「量」より「質」の希望進路の実現を図り、進路未決定者の減少に向けて鋭意取り組む。</p> <p>エ 生徒の学習歴の多様化を踏まえ、小中学校でのキャリア教育、人権教育の状況の把握に努める。</p> <p>オ 自立支援コースの生徒の進路実現に向けて取組を進める。</p>	<p>ア・ルーブリック評価を用い、生徒に課題達成目標を明確に示し、プレゼン講座を充実させる。</p> <p>イ・同一の進路目標を持つ生徒同士で高めあう集団づくりに取り組み、ワンランクアップの進路先を実現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進学希望生徒の増加を踏まえ、自学自習できる学習環境の整備に努める。</li> </ul> <p>エ・小中学校と連携し、生徒・教職員の交流を積極的にすすめる。</p> <p>オ・自立支援コース生徒の進路実現に向け、校内サポートを充実させるとともに、本人・保護者の意向を踏まえ、府教育委員会、地元職業安定所など関係諸機関とも連携し就労に向けた取組を多面的に行う。</p>	<p>ア・自己診断（生徒）「自分の考えをまとめたり、発表することがよくある」58%を60%以上に。</p> <p>イ・希望進路の実現率等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「産近甲龍」相当の大学への進学者数を10人以上に（H27 8人）</li> <li>・二次以降合格率とともに80%以上を堅持。（H27 一次94%、二次88%）</li> <li>・進路未定率を5%以下に。（H27 6.5%）</li> </ul> <p>エ・小中学校とのキャリア教育・人権教育に関する交流を4回以上実施。（H27 3回）</p> <p>オ・自立支援コース生の希望進路の実現率100%を堅持。</p>	<p>ア・自己診断（生徒）結果58%→53.6% 「産社」「総合」だけでなく、他の教科や学習活動でも発表の場を持つことが必要。（△）</p> <p>イ・本校の目標である「希望実現」100%には近づいているが、個別の大学への進学者数は減。（○）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職一次合格率85.7%</li> <li>・2月末現在、就職決定率95.7%（◎）</li> </ul> <p>進路未決定率3% 粘り強い指導の結果である。これからも生徒の満足、納得いく進路指導をこれからもめざす（◎）</p> <p>エ・貝塚市、泉佐野市と進路保障懇談会実施。1月に本校で「せんなんユース人権フォーラム開催」小中高生と教員が交流（○）</p> <p>オ・自立支援コース3年次生は、3人就職が内定（○）</p>
3 教育相談体制の充実	<p>(1)ア教育相談体制を充実させる。</p>	<p>(1)ア・年次団会議等で生徒の情報交換を密にし、「厳しく寄り添う指導」に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「高校生活支援カード」を積極的に活用していく。</li> <li>・教育相談室の整備に努める。</li> </ul>	<p>(1)ア・自己診断（生徒）「先生の指導に納得できる」45%を50%に。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己診断（生徒）「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」55%を60%以上に。</li> </ul>	<p>ア「指導に納得」45%→46.4% 「親身になってくれる」55%→56.6%と微増。相談事があると生徒は担任や養護教諭のところに行き、昼休みの教育相談室の利用が少ない。気軽に行ける工夫を考えたい。（△）</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">4 「自主・自律・創造」力を育成し、繋がることの大切さ等を実感させる。</p>	<p>(1) 多様な学びを通して身につけた能力を最大限に発揮し、自律的自発的に活動し、自らの才能を開花させる環境を整える。</p> <p>ア 総合学科ならではの授業展開により、クラス単位での「仲間づくり」が確立しにくい状況を踏まえ、学校行事や部活動を通して、集団としてのまとまりや縦横の連帯感から生じる新たな力や喜びを感じさせ、集団活動でのみ味わえる成就感・達成感を体験させる。</p> <p>イ 他校種や地域との連携を深めるとともに学校情報の積極的な発信を行う。</p>	<p>(1)ア・修学旅行をはじめ、学校内外で多くの感動を体験させ、自己肯定感を高める取組みを推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が自主的に活動できる場として利用できるよう、特別教室や中庭の環境整備を図る。</li> <li>授業においても、探究活動や発表活動を積極的に行い、それぞれ気づきや学びに基づいた自主的活動を促進し、互いに発表しあうことでコミュニケーション能力を高める。</li> <li>集団活動の少なさをカバーするため、体育祭、文化祭等の行事に工夫を凝らし、クラスのまとまり、単なる「仲良しクラブ」ではない仲間づくりを進める。</li> <li>仲間づくり、自律的な成長に部活動の果たす役割は重要との認識のもと、生徒の主体的な意見を取り入れて、部活動の活性化、新入生の加入率を上げる取組みを行う。</li> </ul> <p>イ・Webページで、“生徒の活動の見える化”に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒がかかわることにより、広報活動の活性化を図る。</li> </ul>	<p>(1)ア・修学旅行の生徒満足度75%以上に。(H27 59%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>総合学科アンケート「コミュニケーション能力が身に付いた」72%を75%以上に。</li> <li>自己診断(生徒)の行事満足度64%を70%以上に。</li> <li>部活動の加入率1年次40%を45%以上に。</li> </ul> <p>・中高の部活動交流の実施クラブ数を7部に。(H27 5部)</p> <p>イ・“写真でみる貝高生”を、毎月1回以上更新。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>校長ブログを週1回以上更新。</li> <li>生徒が作成した広報活動の成果物。</li> </ul>	<p>(1)ア・修学旅行「よかった」90%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文化祭アンケートで、舞台、展示、催し全部門で「楽しかった」が90%以上</li> </ul> <p>→生徒主体の行事は満足度が非常に高い。自主的に取り組むよう指導した成果と思われる。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>総合学科アンケート「コミュニケーション能力が身に付いた」64%</li> </ul> <p>→発表の場面が少ないとの前述の自己診断(生徒)の結果と連動した結果となった。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自己診断(生徒)「行事は楽しく行えるように工夫されている」67%と微増(○)</li> <li>部活動加入率1年次37%</li> <li>定着率：文化部86%、運動部97%</li> </ul> <p>部活動の加入定着率はよいが、新規加入が相変わらず低い。中学校との合同練習の時期見直しも検討する。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中高の部活動交流7部実施</li> <li>11月3日に貝塚市より、本校生徒による校外清掃ボランティア活動が教育功労団体として表彰。</li> </ul> <p>→本校生徒の地域における活動は高い評価を得ている。(○)</p> <p>イ・「写真で見る貝塚高校」3月末で33回更新。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>校長ブログは3月末で186号。</li> <li>生徒の美術作品、書道作品等もブログで紹介。</li> <li>学校説明会も年度途中で2回追加。それぞれ、約100名、約70名の参加者。(◎)</li> </ul>
--	--	--	---	---